

# 第31回全国ホタル研究大会報告

## 研究大会の概要

全国ホタル研究会の第31回大会が6月12～13日にかけて、第31回全国ホタル研究大会実行委員会（北九州ほたるの会・北九州市）主管，環境庁，福岡県教育委員会，北九州市教育委員会，福岡県ホタル連絡協議会，タカミヤ・マリバー環境保護財団の後援により福岡県北九州市で開催されました。九州では第25回長崎大会以来の久しぶりの開催となり，会員や地元のメンバーなど約270名が参加しました。

第1日目は午前中に受付を行い，午後からバスに分乗して北九州市立高槻小学校のホタル施設（飼育室や人工川など），北九州市立鞘ヶ谷小学校のホタル飼育舎，鞘ヶ谷ほたるの里の人工川やホタル飼育施設，小熊野川のホタル護岸を見学しました。小熊野川のホタル護岸を見学後，夕食を小熊野川の源流でもある山田緑地でとりました。当初の計画では夕食後に小熊野川のホタルを見学に行く予定でしたが，今年は発生が早くほとんど発生が終わってしまったとのことで，山田緑地での座談会に切り替えられました。

座談会では大内紘三氏を座長に，

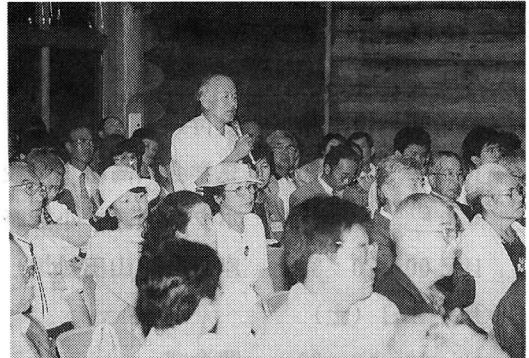
- ①施設見学地の感想や問題点についての意見交換
- ②各地のホタル発生状況
- ③各地の業者によるホタルの大量捕獲による被害状況

についてが話し合われました。

②については今年は気候の影響で，どこも約2週間～10日ほど発生が早まっているようでした（発生状況調査参照）。③については②にもからんで，「計画していたホタル観



見学会（鞘ヶ谷ほたるの里人工川）



座談会（山田緑地）

賞会にホタルがいなくなってしまうのでホタルを譲って欲しい」という自治体からの問い合わせがあったことが報告され、本来ホタルを保護すべき立場にある地方自治体のあり方が問題になりました。一方で、愛知県朝倉川育水フォーラムの働きかけで藤田観光の経営する椿山荘や太閤園のホタルのイベントを中止したという報告もなされました。そして、乱獲防止のためには、まず地方自治体がホタルの乱獲に間接的にも手を貸すこと（ホタルを購入するという）をやめさせるべきだという意見がでました。

13日は開会式が圓谷事務局長の開会のことばではじまり、大場会長、末吉興一北九州市長、高尾新一北九州市議会副議長（議長代理）の挨拶が行われました。

引き続いての研究発表は午前中4題、午後7題が行われました。今年は特に「ホタルと人工照明」についての報告が2つあり、ホタルに優しい照明を考えていこうというところに、これからの保護活動のひとつのあり方を示したのではないのでしょうか。この他に北九州市のヒメボタル、指宿市のオキナワスジボタル、東京都の帰化ボタルという陸生ホタルの報告や東南アジアのホタルの木についての報告がありました。なお、午後の発表が始まる前に編集事務局より寄稿論文の「ホタルの冬虫夏草」や東京で発見された「発光トビムシ」のスライド紹介が行われました。

研究発表の後、休憩をはさんで山岡誠氏を議長に総会が行われました（総会報告参照）。総会后、圓谷事務局長より閉会宣言が行われました。

14日は希望者による市内見学があり、バスの中から小倉城を見つつ門司へと向かいました。門司では最近人気の観光スポットである門司レトロを見学し、再びバスで小倉駅へと戻って解散となりました。

**大会テーマ：**『人もホタルも住みよい環境 みんなで考える北九州』

**会場：**福岡県北九州市 北九州市立女性センター「ムーブ」

**大会日程：**

6月12日（金）

11：00～12：30 受付

13：00～18：00 見学会（高槻小学校、鞘ヶ谷小学校、鞘ヶ谷ホタルの里湧水地のホタル施設、小熊野川ホタル護岸）

19：00～20：30 座談会（山田緑地）

6月13日（土）

10：00～10：30 開会式

10:30~16:00 研究発表  
16:00~17:00 第31回総会  
18:00~21:00 懇親会

## 研究発表:

北九州市立ほたる学校～小学校でのホタル育成の取組みの紹介～ ……  
井口洋子・緒方信一・坂田和歌子  
三潞郡ウィークエンド・サークル活動「大木生物教室」の環境学習 …… 中島重徳  
ホタルと人工照明との相関関係についてⅡ～光色とホタル明滅の関係 ……  
大木美苗・木内香織・田口万里・加藤飛香・芹沢恵美・大竹和男  
ホタル保護灯について ……  
中川七三郎・岡地真作・小林和久・松井進一・嶋 悌司  
ゲンジボタルの糖液嗜好性について …… 山岡 誠  
ゲンジボタル卵の孵化と保存法に対する温度効果 ……  
深澤賢二・西川直希・草桶秀夫  
北海道北広島市のヘイケボタルの生態について2 …… 守下憲治  
福岡県北九州市におけるヒメボタルの生息状況について …… 萱野浩良  
鹿児島県指宿市で発生したオキナワスジボタル …… 上野武次・大村俊郎  
東京都多摩川河川敷で記録された帰化ボタル …… 後藤好正・川島逸郎  
ホタルの同時明滅ーブティロブティクス・エフルゲンスを中心としてー  
…… 大場信義

## 大会開催地より

### 第31回全国ホタル研究会北九州大会のお礼

実行委員長 山岡 誠\*

日本全国から約300名の皆様に参加していただき、大会テーマの「人もホタルも住みよい環境、みんなで考える北九州」を基調にして、多くの貴重なご意見を出し合い、特に、総会において、ホタルの大量捕獲による売買は自然の生態系を破壊することになるので、

禁止を環境庁などに求める決議が採択されたことは、今大会の大きな成果でした。本当に有り難うございました。心より感謝申し上げます。

北九州ほたるの会々員と市職員80名が、昨年10月に、実行委員会を組織して、全国から参加される会員の方々に不愉快な思いをさせないように、そして、何時までも皆様方の思い出に残る大会にしようと準備を進めて参りました。しかし、慣れないことで、何かとご迷惑をおかけしたことと思います。深く、お詫び申し上げます。

北九州市は、戦後、百万都市へと発展して参りましたが、その反面、自然破壊が進行して、市民の健康に障害を来たすようになりました。そこで、汚水の流れる川を、市民が協力して清掃を始めました。その結果、川の水環境が次第に良くなり、市街地でホタルが発生するようになりました。北九州大会では、市街地でホタルが飛翔するのを観賞してもらう計画でしたが、今年は昨年より約2週間も早く、5月上旬にホタルが発生し、6月上旬には殆ど飛ばなくなり、やむなく中止しました。

全国ホタル研究会は、回を重ねるごとに、内容が充実して参りました。今後、ますます発展していくことを切望しております。

\*北九州ほたるの会会長

## 全国研究大会参加の感想にかえて

大内 紘三

雨、濡れていこうか、それにしては少し強い雨。目の跳橋が今まさに動きはじめて傾斜を増していた。小さな入江を隔てて、対岸には古い建物がまた2つ。観光用に造られた跳橋はこの入江を跨いでいて、時折上下する。入江を巡って対岸に達する頃には雨も止んだ。大会後皆さんと訪れた門司レトロ地区。このあたりは戦後まで活躍した洋風の建物が軒を連ね、よく保存され、また現在もなお活用されていた。いかにも古いレンガの建物に遥かなノスタルジを覚えた。

そのうち、光が一つ弧を描き、次第に数を増し、辺りが闇であることを気付かせた。山田緑地。つい10日ほど前まではまさに‘多<sup>ま</sup>なる’光が夜を賑わせていたのだが、今年はどうしたのか。早くもその時期を過ぎてしまっている。しかし、この様な何処でも見られた光景を、われわれはいつの頃失ったのだろうか。幼虫飼育、カワニナ、小中学校・地域の活動。座談会での皆さんの熱のこもった討議に聞き入っていると、外は雨との知らせ。観察に行くはずだったあの光景を思いつつ、いや、みんなのこの熱気を削いではならない、北九州ならではの皆さんの期待を裏切っては等々の思いが交錯する。また大会を意義あるものに、研究会の、研究の、活動の更なる発展の分岐点に等の思いが、迫る時間とともに

判断を鈍らせる。そして柄にもないことを口走ってしまったらしい。

大会を思うと、後で気付いたことだが、プログラムが十分周知されていなかったにもかかわらず、参加者の熱意と理解に助けられて、何時の間にか終わりを迎えていた。総じてこの様な行事の成功は、各方面の裏方のご苦勞に帰するのだが、それに加えてこの会は参加者の熱意に支えられていることを改めて知らされた思いであった。懇親の席での子供らの清新な演技と青年達の打ち鳴らす祇園太鼓の響が、沈澱し錯綜した幾つもの思いをみごとに昇華させてくれた。参加できたことのほのかな喜びと無事に終えたすがすがしさと、レトロのノスタルジに浸りながら、小倉を後にした。この研究会はまた1つ前進の方向を発見したに違いない。

### 第3 1回全国ホテル研究会大会に参加して

関戸 英毅\*

私が研究大会に初めて参加したのは、第20回広島大会に発表者としてでした。その後、熊本、長崎、小牧、福山大会と研究発表を聞く側で参加し、懇親会にも出席して来ましたが、開催地の方々がいかに大変な思いをされて大会の開催に当たられていたかという事が今大会の実行委員を努めて初めて分かりました。

一年前から始まった月一回の実行委員会、そこで役割分担が決まりました。弁当係、鞘ヶ谷小学校施設見学の説明係と懇親会でのアトラクションの出し物、国指定無形重要文化財・戸畑提灯大山笠のおはやしの世話係と、一人三役を努める事に相なった訳ですが、最初にしなくてはならなかったのが、一日目の夕食、二日目の昼食の弁当配布などをお手伝い頂ける人を集めることでした。北九州ほたるの会の名簿の中から選んで電話し、何日もかかって何とか人数を集めることが出来ました。

次に、一日目の夕食、二日目の昼食の弁当の中身を決めるのに悩みました。また、大会近くになって、二日目の昼食の席が、申込み者の半分程しか確保出来ないということが分かり、慌てました。二度、三度と会場に行き、会場の人と打ち合わせをして、何とか人数分のテーブル、椅子の確保が出来、ほっとした次第です。また、参加人数と弁当申込み者数の集計が遅れて、やきもきました。

そして、大会初日を迎えた訳ですが、鞘ヶ谷小学校の施設見学に際しては、参加者の皆様に、不愉快な思いをさせまして、深く反省しております。第1に、バスの降りる場所の打ち合わせが悪く、随分、遠くから歩かせることになった事です。第2に、説明が不慣れたために、狭い飼育舎の中で小人数ずつに説明していたため、中に入れない多くの人達に暑い思いをさせてしまいました。飼育舎の外で、参加者全員に一度で説明が出来るように、

前もって準備をしておくべきだったと思いました。夕食は天気に恵まれ、山田緑地の広々とした芝生の上で、皆様が遠足気分になり、お話も弾んでいるようで、安心しました。

二日目の研究発表会では、小学校の発表を聞き終わると、すぐ昼食会場づくりに取りかかり、混乱もなく終わることが出来ました。また、総会には出席したものの、結局、研究発表会は小学校の発表のみを聞いただけでした。

次に、懇親会のアトラクションの出し物、国指定無形重要文化財・戸畑提灯大山笠のおはやしの準備のため、会場へ向い、打合せをし、中学生が担ぐ大山笠の五段を四階の会場へ運び上げるのが大変でした。しかし、ライトダウンした会場で、提灯の灯が祭りの雰囲気をつくり、中学生が奏でおはやしの音色とヨイトサー、ヨイトサー、ヨッサー、ヨッサーのかけ声を、懇親会の皆様が聞かれて、戸畑のお祭り気分を十分に感じられたものと思います。

最後に、私にとって、この北九州大会は記念すべき思い出の大会となりました。

\*北九州はたるの会会員

### 第31回全国ホタル研究会大会に参加して

井口 洋子\*

ホタルのことを全く知らなかった私ですが、高槻小学校でホタル係の担当となったことがきっかけとなり、全国大会で発表させていただくことになりました。とても素晴らしい経験をさせていただいたと思います。本当に有り難うございました。

とくに、高槻小学校を見学していただいたこと、また、懇親会で全国のホタルを愛する方々とお話できたことは、私にとって、とても有意義な時間でした。まず、高槻小学校見学では、全国のホタル飼育に長年携わっている方々から、ホタル飼育についての貴重なアドバイスをいただきました。よりよいホタル飼育を常に研究され、実践してこられている方々から、直接、お話をお聞きすることができたことをとても嬉しく思っております。このことは、今後の飼育活動の中で生かしていきたいと考えております。さらに懇親会でも、多くの方々とお話をすることができました。この大会に参加しなければ、お聞きすることのできない貴重なお話をたくさんお聞きし、楽しい時間を過ごすことができました。

現在、私は、児童と共に、無事うまれることのできた幼虫たちのお世話を心をこめていたしております。槻田地区発展期成会の自然環境部会の方々の支えの中で、今年も、たくさんの幼虫を放流することができそうです。ホタル委員会の児童の中には、初めてホタル飼育の中心となって活動する児童もいますが、一生懸命取り組んでいるその姿を見ていると、温かい思いを感じ、ホタル飼育の担当になって、大変だけれども良かったなと思っ

ております。

今後も、高槻小学校の素晴らしい環境を生かし、児童の思いを大切にしながら、ホタル飼育に取り組んでまいります。そして、ホタル飼育をしていく中で、児童が、今の自分たちにできることは何かを、自分たちなりに考え、実践していこうとする心を育てていきたいと思っております。

最後になりましたが、私の発表を支えてくださいました多くの方々に、感謝の気持ちをこめて、心よりお礼申し上げます。

\*北九州市立高槻小学校教諭

### 第31回全国ホタル研究会大会に参加して

萱野 浩良\*

北九州の自然にあこがれてUターン転職し、5年前より北九州市に住み始めた。その年の6月、ゲンジボタルを探している時、今までに見たことのない光の点滅を目撃した。それが、ヒメボタルとの最初の出会いであった。

以後、私はその光の幻想的な美しさに惹かれ、真夜中の林の中を、ヒメボタルを求めて探索するようになった。生息が確認できた時は、そのデータがいつか何かの役に立てばと思い記録してきた。私の場合は特に研究という程のものではないが、この「全国ホタル研究会 北九州大会」という大舞台において、今までに知り得たわずかばかりのことを発表させて頂くことになった。

多少データ不足な部分もあるが、今までの記録をかき集めてどうにか取りまとめることができた。しかし、実際に口頭で発表するには、そのような経験が皆無に等しい私にとって、大会当日のための発表用原稿が不可欠であり、研究会誌に投稿した内容を基に組み直すことにした。

OHPや発表用原稿の作成作業に取りかかることができたのは、大会の2週間程前であったが、今年はヒメボタルの出現期が早く、この多忙な時期に彼らも飛翔を始めた。本大会を支援して羽化を早めてくれたのであろう。私は発表の終わりに、今年のヒメボタルの発生状況を併せて報告することにした。

発表の前々日まで観察を続け、原稿とOHPができ上がったのは、前日の午後11時であった。

予行演習もせずに当日を迎え、少々寝不足の状態でもあり、発表中は原稿から少しでも目を離すと、どこまで読み進んだのか分からなくなるという有様であった。OHPにはほとんど目を移すこともできず、ただ原稿を読み通すことで精一杯だったような気がする。



今回の発表が、真夜中の闇に光り輝くヒメボタル達にとって、何か少しでもプラスになればうれしいのだが。

本大会は、北九州市においては市制50周年を記念する素晴らしい大会であったと同時に、私事で恐縮ではあるが、私にとっても生まれて30年という節目を飾るにふさわしい思い出となった。このような大変貴重な機会を与えて頂いた全国ホタル研究会、並びに北九州ほたるの会の皆様に心から感謝する。

なお、発表の中で、前日の6月12日にヒメボタルが一つがいから59個の卵を得たことを報告したが、室内(26~29℃)で飼育した結果、研究会誌p.22に述べた孵化状況と同じく、産卵から17日後(6月29日)に孵化が始まり、計39匹が孵化したことを付け加えておく。

\*北九州ほたるの会会員

## 第31回全国ホタル研究大会報告 大会開催地より

坂田和歌子\*

第31回全国ホタル研究会北九州大会においては、日本全国から約300名のご出席をいただきありがとうございました。興味深い研究発表や熱のこもった議論など内容の濃い大会となり、市内視察の様子をはじめ、研究発表や総会で議論されたホタルの乱獲防止を求める決議について、TVや新聞各紙で取り上げられ、多くの人々の注目を集めました。

ところで、約20年前から地域でホタル育成保護活動が始まった北九州市は、平成4年に日本で唯一のほたる係を創設し、多くの市民のご協力をいただきながら、ほたるのふるさとづくりを進めています。ですから、北九州大会への期待と共に良いものにしようと思気込みも大きく、昨年(平成9年9月)には、すでに北九州ほたるの会を中心とした北九州大会実行委員会を組織し、会合を持っていました。開催がひたひたと近づいてくるのを感じながら、馴れない準備に右往左往して大変なこともありましたが、今は、盛会だった北九州大会の思い出と喜びだけが心に残っています。実行委員会メンバーだけでなく、参加者の皆さまが満足してくださったことを心から願っているところです。

そんな中で、ただ一つ心残りだったのは、今年はゲンジボタルの飛翔時期が平年より半月ほど早く、ホタル観賞会が出来なかったことです。実行委員の皆さんも「ぜひ、北九州のホタルを全国の会員さんにお見せしたい。」と、願っていたのですが。視察の最後にご案内した小倉北区の小熊野川を覚えていらっしゃるでしょうか。街なかの住宅地を流れる小さな川ですが、最盛期には千を越えるホタルが見られます。一時期、汚染が進み、多くの生物が姿を消してしまったのを、地域住民の努力によって市内のホタル名所にまで生き

返らせた川です。工業都市のイメージが強い北九州市ですが、実は、市内にはそんな川がいくつもあります。そこに飛ぶホタルの光には、純粋な美しさに加えた何か、一度失ったものを取り戻すために努力してこられた多くの人々の思いが宿っているように見えるのです。日本全国で、ホタルとホタルの生息する環境を守っていこうとがんばっていらっしゃる皆さまと、そんなホタルの光を見ながら語り合えたらどんなに良かったらうなどと、今年の異常気象を少々恨んでいたりします。

大会が終わって早3ヶ月がたちますが、大場会長をはじめ多くの皆さまから、北九州大会事務局宛にお礼状をいただきました。実行委員会一同、このような皆さまの暖かいお心遣いに感激しています。また、ほたる係としても嬉しいことがありました。今回の大会のことをTVや新聞で知り、これまでの地域活動を一步広げ、ホタル保護の活動をしてみたいという市民からの問い合わせをいただいたのです。全国大会という大きな一石を投げられた北九州市では、大会終了後もまだまだ“ホタル”の波紋が広がっているようです。このような力を持つ全国ホタル研究会のますますのご発展のためにも、私たち会員一人一人が、会の運営・活動に協力し盛り上げていくようがんばっていかねばと、今大会を経験し、気持ちを新たにしているところです。

\* 北九州ほたるの会会員／北九州市建設局下水道河川部水環境課ほたる係